

伊勢と共に47年

半分の月がのぼる空

講演上映会 一般公開・入場無料

平成22年
8月8日
 皇學館中学校
 セミナーホール
 14:30-17:00

この講演上映会は同窓生以外にも一般公開いたします。
 ぜひお誘いあわせの上、ご来場ください。

伊勢を舞台に撮影され、今春公開された話題作
 「半分の月がのぼる空」の上映会をいたします。
 また、同映画に伊勢実行委員会会長として参加した
 山本雅則さん(第15期生)による講演を交えてお送りします。



題字 皇學館高等学校長 中村 貴史

皇高同窓会報

◇編集発行 皇學館高等学校
 同窓会(本部)

〒516-8577
 三重県伊勢市楠部町138番地
 TEL (0596) 22-0205 (代)
 FAX (0596) 24-3141

◇印刷 (有) 青木印刷

同窓会会員総会、講演上映会、懇親会開催

日 時 平成22年 **8月8日(日)** 午後1:30~午後7:00

場 所 皇學館 学舎内 1部 会員総会 皇學館中学校セミナーホール
 2部 講演上映会 //

3部 懇 親 会 皇學館大学倉陵会館

会 費 懇親会のみ会費 **4,000円** ただし、今期卒業の45期生は無料招待となっています。

受 付 午後1:00~

第1部 会員総会 午後1:30~午後2:15
 同窓生皆様が対象の総会です。卒業生の方、ぜひ出席して下さい。

第2部 『半分の月がのぼる空』 講演上映会
 午後2:30~午後5:00

伊勢市出身の作家橋本紡氏原作・累計140万部を突破した恋愛小説『半分の月がのぼる空』が映画化。4月3日全国ロードショーが行われ、大きな反響と多くの感動を与えてくれた、伊勢を舞台にした作品を上映。また、この作品に伊勢実行委員会会長として参加した、山本雅則さん(15期生)にお願いし、この作品に対する想いを語っていただきます。

第3部 懇 親 会 午後5:30~午後7:00

1期生から45期生が一同に集まり、親睦を深める場をもうけました。先生方も多数御出席いただける予定です。ぜひ参加し楽しい時間をすごしてください。(アルコール類の御用意もありますので飲まれる方は、お車の運転は絶対になさらないでください。)



昨年度の懇親会風景

● 参加のお申込は、同封のハガキ、またはホームページからできます。

お問い合わせ先 皇學館高等学校同窓会事務局 齋藤 TEL 0596-22-0205

会 員 数

◎ 同窓生 15,912名
 ◎ 在校生(H22.5.1現在)
 1年生 325名
 2年生 376名
 3年生 408名
 計 1,109名

ホームページ

今後会報だけでなく、ホームページを通じて同窓会会員との連絡やコミュニケーションをより一層深めていきたいと考えています。

ホームページへのご来訪、ご参加をお待ち申し上げます。

<http://www.kogakkan-d.jp>

※住所変更など、ホームページからも変更手続きができますので、ご利用ください。

めざましい母校の活躍に更なる支援を！

皇學館高等学校
同窓会 会長

坂田

巧 (第一期生)



皇高創立五〇周年まで三年を切つてまいりました。会員始め現・旧教職員の皆様方、そして神社界、納入業者の方々にも浄財をご寄付いただいております。御礼申し上げます。同窓会の会員諸氏には、周知不足の点もあり、同窓会に与えられた目標額にはまだまだ遠いところにありますので、今後も引き続きご協力のほどよろしくお願い致します。

五〇周年記念事業の一つであります母校の「応援歌」製作につきましては現在準備を進めております。近年特に、在校生の運動部・文化部での活躍が目覚しく、男子バレーボール部

の春高バレー連続出場、男子バスケットボールのインターハイ出場、野球部の躍進、そして吹奏楽部の定期演奏会など、大変楽しみになってまいりました。私共、同窓会として各部の更なる充実のためご支援をさせていただいておりますが、この応援歌もきつとお役に立てるものと思っております。

今年の総会及び懇親会は、別記の通り、来る八月八日(日)の午後一時三十分より母校セミナーホールにて開催します。今年には、同窓会役員でもあります第十五期生の山本雅則氏が、伊勢を題材にしたベストセラー小説の映画ロケに随分協力

され、また公開作品が大ヒットするなど地元にとっても大いに熱気があがりました。そこでロードショーが終わったばかりの「半分の月がのぼる空」を鑑賞し、ロケでの思い出や苦労話などを山本氏に語っていただく内容としました。一般公開といたしまして一度観られた方も是非おこしくださいと思います。

また、映画鑑賞会終了後は倉敷会館に会場を移し懇親会を開催します。先生方にも多数ご参加いただきますようお願いをさせていただきますので、同期会も兼ねてご参加いただきますようお願いいたします。

一期から四十五期までの先輩後輩の交流が図れる唯一の場です。沢山の同窓生諸氏のご参加をお待ちしております。

墓地で

第十一代学校長

中村 貴史



お墓参りに行った。海辺のこの墓地はヴァレリーの構想力を掻き立てたようなものでなく、どうにも雄風景だ。環境なら青山霊園、趣きなら鎌倉の寿福寺、東慶寺あたりが一等いい。信州の山あい、十基ほどの卒塔婆に行き当り、あ、こりや墓地なんだ、と気づいて、こんな所に葬りたいな、と思ったこともある。文化の違いは墓地に顕著である。ペール・ラシユーズなど、印刷物で目にする外国のお墓は、故人の写真を墓石にはめ込んだりするが、ああいう生々しさは日本人のセンスから遠い。R・シュトラウスは、リートの世界に名作を残したが、「万霊節」はそうした美しい例だが、わが国の墓地からあしたの抒情は生まれてこない。地所に限りがあるし、時の経過とともに死者は増加していくから、古いお墓は無縁墓の扱いをうけ一隅を形成している。現代は花崗岩が主だが、昭和初

期頃まで、圧倒的に墓石には砂岩が使用されていたから風化も早い。なかに「無道絶音信士」なんて、突き放したような塔婆がある。天保己亥とあるから、一八三九年、一七〇年ほど前の死者であるが、どうしてこんな戒名を付けたのか、坊さんの意図が知れない。あるいは僕らの知らない高級な寓意がこめられているのかもわからない。

* *

現代人は呼吸するように「死」を感じた環境に欠けている。尊厳死だの臨死判定だの、死についての議論は多いが、それは死者とは無関係な、生きた人間のジャーナリスティックな喧噪に過ぎない。先端技術を駆使する現代人も自然の有機性連鎖から自由ではなく、死を免れ得ないわけだが、生命維持装置に代表されるような状況は、この世を去ったあとの世に赴くという、ごく素朴で自然な死の受容を難

しくしている。上智大のアルフォンス・デーケン氏は、教育で「死」を教えないと人間性の回復は難しいと言いが、そうした主張は、かなり納得できるものである。幼児死亡率の高さを反映して、童子達の童女だのと刻まれた小ぶりの塔婆が無縁墓には多い。その母親は、どこそこの子供と同様、彼もまた寿命の薄い子供だったと嘆く。彼女が野辺の送りに見上げた空は、子どもの宿命に照応したどんよりとした雪催いの空だったかも知れない。あるいは、彼女の悲哀に無関心なように高く澄んだ青を反映したものだったかも知れない。

悲慘に関わりなく、自然は不変の相を変えなかつた。人間といふものを超えて変わらず彼方に在るものがある。死んだ子どもは、そうした場所に還つていった。癒されぬ悲しみを横切つて、瞬間、いささかの安堵が訪れる。自然のなかで、彼女らは、そうした永遠を何となく感じとっていたことだろう。苔藓ははじめた塔婆群のなかで、そんなことを思った。

全国大会、東海大会出場選手の顧問、主将の報告

【陸上部】

国体出場(個人二位)、インターハイ出場、県大会優勝(個人)

いつも陸上部の活動にご理解ご協力いただきありがとうございます。現在、シーズン真只中です。春季大会では森田隆真君が四〇〇mHで優勝し、中村宇宙君が棒高跳で二位に入賞しました。新入生の東海里香さん・小山綾香さんも大活躍し県総体が楽しみになってきました。特に、森田君の記録は、順調にゆけば全国大会も夢ではない記録と

思っています。昨年の今頃に田中僚君が腰を痛め、全国インターハイに出場は出来たものの、体調が間に合わず、予選を通過しましたが決勝では記録なしとなり応援団と共にションボリして競技場を後にしました。本人の気持ちを考えてこのままで終わらせることが出来ないと考えすぐに、国体入賞の目標に切り替え練習しました。目標が出来たものの、スランプに落ち入り不安材料をかかえたまま出場。本人は、微妙な練習を繰り返して回復することで自分の意思を高め当日にのぞみました。結果二位入賞(自己新記録)で三年生最後の試合を締めくくることができました。本人の努力も勿論、ご両親やいろいろな方々のご指導ご協力のおかげでこのすばらしい結果に結実させることができました。心よりお礼申しあげると共に、今年もクラブ員全員で力を出し合い、全国インターハイを目指し努力したいと思っております。このように充



陸上部
国体2位 田中僚君

【男子バスケットボール部】
インターハイ出場、県大会優勝
男子バスケットボール部は昨年度、県大会で優勝し、創部初、インターハイに出場することができました。この結果は、これまでの卒業生たちが積み



男子バレーボール部

【男子バレーボール部】
春高バレー出場、インターハイ出場、県大会優勝
私達は三月二十日から東京で開催された春の高校バレーに出場しました。今回で二年連続八回めの出場となりました。一回戦は神奈川県代

表川崎橘高校と試合をしました。去年、先輩方はインターハイで川崎橘に負けたので、そのリベンジの気持ちも込め、試合に臨みました。しかし、自分達のミスで失点し、思うようなプレーができず、悔いの残る試合をしてしまいました。負けた後に私達は全員でミーティングをしました。試合内容や負けてからの気持ち、今までの練習に対する姿勢などを話し合い、次のインターハイまでには全国で勝てるチームを作ろうと約束しました。春高では負けてしまっただけで、この経験はチームにとって貴重なものとなりました。次のインターハイでは春高の時とは違うチーム力を見せて、一つでも多くの試合ができるように頑張っていきたいです。

(男子バレーボール部主将 宮崎 健汰)



男子バスケットボール部

重ねてきた努力の成果でもあり、ますし、様々な方々からのあたたかい支援のおかげと感謝しています。現在、第二体育館が改修のため、サングリーンや大学の体育館で練習しています。移動に時間がかかるため、必然的に練習時間は短いですが、理想とする「速い展開のバスケット」を目指し集中して練習に励んでいます。全国大会に出場することで、多くの課題がみつかりました。その課題を克服し、今後は全国大会での勝利を目標に日々体育館で汗を流しています。

(男子バスケットボール部顧問 林 浩司)

【卓球部】

インターハイ出場、大阪国際大会出場、東海大会出場(女子団体・個人)

部員は男子十名・女子五名、顧問は三名と小人数ですが、東海大会、インターハイを目指し日々頑張っています。練習は毎日放課後二時間、効率よく行っています。女子は個人で三年連続インターハイ出場。一昨年、県高校新人大会団体の部で五連覇をしていた高校に勝ち優勝しました。東海大会、中部日本大会、大阪国際卓球大会などに出場する、県下でも有数の強豪高校に躍進しました。本年度より、本校卒業の田中克征先生(全国大会出場)が教員となり顧問に加わって指導しています。

「継続は力なり」

をモットーに、家族や友達に感謝し、卓球にも力を入れ、文武両道を目指しています。(卓球部顧問 村崎 孝)



卓球部

【柔道部】

インターハイ出場(個人五位)



柔道部

僕たち柔道部は日々全国大会出場を目指しています。二年前の全国高校総体では個人戦と団体戦に出場し、個人では七十三キロ級で三位に入賞しました。昨年は個人のみで八十一キロ級で五位に入賞しました。僕たちも、この二人の先輩のように全国大会で活躍したいと思っています。今年から新任の山崎先生に顧問となつていただき、練習は今まで以上に活気にあふれ、良い雰囲気の中で練習ができています。これからも一層良い成績が残せるように一生懸命、稽古に精進していきたいと思っています。

(柔道部主将 梅田 健人)

【弓道部】

全国高等学校弓道選抜大会出場(個人)、東海大会出場(個人)

私は個人の部で東海高等学校弓道選抜大会と全国高等学校弓道選抜大会に出場しました。出場が決まったときは、本当に嬉しくて信じられないほどでした。大会までの練習期間は、周りの応援にたよると、また、いつも通りの射ができるように、一生懸命に取り組みました。ただ、個人での出場は少し射場での孤独感を感じました。それでも応援してくれた家族や先生方、支えてくれた仲間がいてくれたことでたくさん助けてもらいました。本当に感謝しています。今は沖縄県で開



弓道部 西井みのりさん(手前)

催される全国大会を目指し、県総体に向けて練習しています。今度は団体での出場を果たしたいです。

(弓道部 西井みのり)

【男子剣道部】

東海大会出場(五位)、秋季県大会優勝



剣道部

勝、個人戦は三位と五位に一名ずつ、東海大会団体戦五位、秋季大会団体戦優勝、新人戦団体戦準優勝、個人戦三位と五位(この二名は二十二年度県総体個人戦シード選手)、二十二年年度では春季大会団体戦準優勝と、どの大会も好成績を収めています。私たち三年生の目標はあくまで県総体での団体戦優勝です。これは入学当初からずっと持ち続けてきたものです。この試合で全てを出し切り、悔いの残らないような最高の試合をし、優勝したいと思っています。これからは皇學館高等学校剣道部をどうぞよろしく願っています。

(剣道部主将 阪井 耀)

【バドミントン部】

東海大会出場(男子団体・個人)

私たちバドミントン部の目標は、インターハイや東海大会で勝てるチームになることです。目的は、将来に社会の先導者として活躍できる資質を身につけることです。毎日の生活の中で、チームも個人も思った通りにいかないことがありますが、上級生を中心にチーム全員で乗り越えられるように頑張っています。チームの成績は、全国選抜大会三重県大会では個人ダブルスで準優勝・団体では三位になり、皇學館高

校二十六年ぶりの東海大会出場を勝ち取ることができました。また、二月に行われた新人大会においては団体で準優勝をすることができました。



バドミントン部

このような結果を残せたのは顧問の先生方や応援していただいた方々のおかげだと思います。そして、何よりも毎日見守ってくれている家族のおかげです。これからも、常に感謝の気持ちを忘れず、さらに向上心を持って「努力」を続けたいと思います。

(バドミントン部主将 登 光司)

【吹奏楽部】

県コンクール金賞(A編成)、東海大会金賞(個人)

昨年度は三重県吹奏楽コンクールにおいて金賞をいただき、その中でも上位入賞を果たし大きく飛躍することができました。また一年間の集大成である第二回定期演奏会では、伊勢市観光文化会館が満席の中、お客様も一体となつて盛り上がり部員も顧問も感動をいただいた素晴らしい演奏会となりました。

本年度は部員数九十名をこえる大所帯となり、宮崎県で行われる全国高等学校総合文化祭にも三重県代表として出場することが決まりました。



吹奏楽部

今後とも「明るく・楽しく・心を一に」がんばります。

(吹奏楽部顧問 前川 幸生)



皇學館高等学校 創立五十周年 記念事業へのお願い

第一期生百六十名を迎えて母校皇學館高等学校が産声をあげたのが昭和三十八年。半世紀を数える平成二十五年には、創立五十周年を迎えることとなります。

高校内に設置された記念事業委員会は、募財活動・記念誌編集・記念式典行事の三部構成からなり、今後それぞれで具体的な提案が進められてゆくことになっています。

私も同窓会としても、五十年の伝統をふまえさらなる母校の発展に寄与したいと願っています。

卒業生をはじめ、在校生、学校関係者、地域で支えていただいた皆様方など、この五十年を共に歩んだ方々が、共に感謝と喜びを分かちあい、創立五十周年を盛り上げてゆかねばならないと思います。

同窓生の皆さま方の熱いご支援をよろしくお願い申し上げます。

又、さきに協賛募金をお願いさせていただいたところ多くの皆様に御協賛いただき、心より感謝申し上げます。

また、今後協賛に対し御理解いただける方々におかれましては、同封の募金要項を御確認の上、お振込をお願いします。(四十二期生・四十五期生の皆様は今回寄付依頼の対象から外させていただきますので、募金要項及び振込用紙は同封してありません。)

最後になりますが、同窓会会員の皆様が五十周年記念事業に対し御理解をいただき、一人でも多くの同窓生が参加いただければと、心よりおまち申し上げます。宜しくお願いします。

